岩手県児童館・放課後児童クラブ協議会会報

はばたき

habataki
第55号
発行日：2019年（平成31年）3月

【主な内容】
☆いわて子どもあそび隊報告
☆第16回全国児童館・児童クラブふくい大会 参加報告
☆児童健全育成型児童館ワーキンググループ活動報告
☆研修会報告・予定について

いわて子どもあそび隊

「いわて子どもあそび隊」は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を受け、被災地の児童館等を支援するため、県内の健全育成関係者などのメンバーで結成しました。

当初は、被災地の児童館や避難所を定期的に訪問し、支援物資の配布やあそびを通して子どもたちを励ます活動を行っていましたが、現在は要請を受けてから訪問する形をとり、「必要なときに、必要な人に、必要な支援を!」をモットーに、あそびの提供等の活動を続けています。

平成30年度活動報告

今年も沿岸部の子どもたちとたくさん遊んできました！

工作や絵本を愉しんだり、体を動かしたり、たくさんの子ども達と遊びました！暑い夏も、寒い冬も、子ども達はいつも元気いっぱいです♪

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました！

○訪問活動回　22回
（うちあそびにコンビニ8回）
○おうえん隊
（キットづくり1回）
○あそびのキット提供
○その他
札幌児童会館との交流会等

札幌児童会館のみなさんと。

研修会報告

平成30年度研修事業報告
～児童厚生二級認定5科目を開催～

当会では、児童厚生二級認定12科目を、3年以内で履修できるよう計画的に研修会を実施してします。今年度も、計画に基づき、5科目を実施しました。

まず、6月に開催した第1回児童健全育成関係者レベルアップ研修会では、「配慮を要する児童の対応」、続いて9～10月には実技研修会を開催し、「表現活動」、「ゲーム・運動あそび」の講義を、また、11月に開催した児童館等職員研修会においては、「健全育成論」の講義とともに、特別講義としてアンガーマネジメントの研修を行いました。

そして、12月の第2回児童健全育成関係者レベルアップ研修会で「個別援助活動」の講義をいただきました。

特に、「配慮を要する児童の対応」については、120名を超える参加をいただきました。

今後の認定科目研修計画

2019年度における当会の研修実施予定は下表のとおりです。

また、平成30年度に児童館ガイドラインが改正されたことから、2019年度の第1回レベルアップ児童健全育成関係者研修会（例年6月開催）では、改正児童館ガイドラインについての特別講義を予定しています。

資格取得を目的とした受講は勿論のこと、スキルアップのための受講についてぜひご検討ください。

なお、資格取得に係る科目の読み替えや資格の取得方法につきましては、（一財）児童健全育成推進財団までお問い合わせください。

（☎03-3486-5141）

実技研修会「表現活動」の様子

2019年度研修実施科目	研　修　名	開催時期
児童館論Ⅰ（旧児童館論）	第1回児童健全育成関係者レベルアップ研修会	6月予定
児童館論Ⅱ（旧放課後児童クラブ論）	児童館職員等研修会	10月予定
集団援助活動	第2回児童健全育成関係者レベルアップ研修会	12月予定
ゲーム・運動あそび	実技研修会	9月予定
表現活動		

いわての仲間とつながろう！
～児童館・児童クラブモバイルサイト～

当会では、全国大会が当県で開催された平成21年度から、情報発信の場として活用したサイトを継続して運用しています。

各館での行事や普段の様子など、お気軽に発信してください。当会事務局まで情報をお寄せいただければ、こちらで掲載させていただくことも可能です。

研修会案内や、いわて子どもあそび隊情報も随時掲載していますので、是非一度ご覧ください!

（岩手県社会福祉協議会ホームページからのリンク）
トップページ ⇒ 岩手県社協とは ⇒ 各部お問合せ ⇒ 福祉経営支援部

パソコンからもご覧になれます。
http://iwatejido.jugem.jp/

ブログはこちらから
スマートフォン、タブレットでQRコードをスキャン

■発行／岩手県社会福祉協議会 岩手県児童館・放課後児童クラブ協議会　岩手県盛岡市三本柳8地割1番3 TEL019-637-4466 FAX019-637-4255

参加報告

全国児童館・児童クラブふくい大会

岩手県児童館・放課後児童クラブ協議会　会長　瀬戸 満也

平素から当協議会の運営及び事業の推進に、ご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

ところで、去る10月10日～11日に、福井県福井市で、全国児童館・児童クラブふくい大会が開催され、当会からは小職が参加しましたので、その模様を報告します。

【オープニング・会長挨拶】

オープニングパフォーマンスとして、「木部子ども三味線」、「八ツ杉太鼓遊心」、「勝山左義長ばやし保存会」の3団体による演奏が行われ、その後、鈴木理事長の開会挨拶がありました。

鈴木理事長から、本年10月に平成23年以来となる改正児童館ガイドラインが発出されたこの時期に福井大会を開催できることへの関係団体等への感謝の言葉がありました。

【基調講演】

開会セレモニー後、基調講演として、パックンマックン(タレント)から、日本と欧米との教育の違い、親と子のコミュニケーションの取り方など、笑いを交えた講演がありました。

【分科会】

今回は、十一の分科会が設定され、2日間に渡り行われました。

遊び製作・体験のほか、テーマごとに課題解決、意見(情報)交換により明日につながる支援のヒントやアイデアを共有し合う機会となりました。

私は、第9分科会『多様な利用者支援』『ちょっと気になるあの子について考えよう』に参加しました。「貧困問題」、「LGBT」、「言葉や文化の違い」の3つのテーマでグループワークを実施、参加者それぞれの立場や施設として抱える課題、取組実践例など活発な意見交換が行われました。

「貧困問題」への取組の一例では、沖縄県での「子ども食堂」の取組が挙げられ、全国でも貧困率が高い沖縄には国からの補助も大きく、行政、児童館、社協、民生委員、学校などがネットワークを作り、児童館が「子ども食堂」に取り組んでいます。

このため、どの子どもでも利用できるとして利用率も高くなっているそうです。

また、課題として、親の帰りが遅い子のために夕食を提供したいが、自治体から昼食のみに提供が限定されている、戸建ての住宅に住んでいる親子が低額の料金で子ども食堂を利用しており、本来利用してほしい子どもたちが利用できない、利用する子どもが減少している等、今後の事業継続への課題があげられた事例もありました。

「子どもの貧困」については、前回大会から引き続きのテーマとして、課題が一層顕在化し、取り組みの好事例も蓄積されてきたようです。

また、今回、新たにテーマとなった「LGBT」や「言葉・文化の違い」のテーマは、まさに多様化している子ども本人や取り巻く社会環境にいかに対応するか、「子どもの貧困」同様、次期大会に引き継がれていくものと思われます。

2日目の第9分科会では、「LGBT」、「貧困問題」、「言葉や文化の違い」それぞれに共通するキーワードとして、次の3点が確認されました。

①見守る他者を増やすこと。

児童厚生員は遊びのプロであり、遊びを通して人、地域を巻き込むことができるコーディネーターでもあり、地域資源を活用して見守る人を増やすことができる。

②LGBT、貧困、言葉や文化の違いがあってもフィルターを通さず、どの子どもでも**フラットに迎え入れる児童館(空間)を目指す。**

③専門性を深めること。

児童厚生員、児童クラブ職員は、専門職として発信する役割を担う、多種多様な事例に触れ、情報発信を続けることが重要である。

平成30年度岩手県児童館・放課後児童クラブ協議会表彰(敬称略)

表　彰 (3名)	高松児童センター	髙　橋　恵　子
	煙山児童館	太　田　智　子
	たのはた児童館	有　谷　悦　子
感謝状 (5名)	加賀野児童センター	平　澤　和　志
	加賀野児童センター	舘　澤　温　子
	山岸児童センター	斗　成　正　明
	いわて子どもの森	佐　藤　星　河
	たのはた児童館	三　浦　千穂子

【施設視察】

大会後、「エンゼルランドふくい」でのあそびの屋台の視察に参加しました。

あそびの屋台には、いわて子どもの森が「おとな～るラボ」と題して、「おとみえ～る」、「こえかわ～る」を出展したほか、他県の大型児童館等による遊びが紹介されていました。

児童館等の関係者だけでなく、一般来館されていたお客様も各屋台に足を止めては、体を使った遊びや、紙コップなど身近な日用品などを使った遊びに興味を示され、盛況のうちに2日間の大会が終了しました。

最後に、閉会セレモニーでは、次の大会発議が確認され、次回17回大会が京都市で開催されることが決定、京都府連による決意表明がなされました。

【全国発議】(一部抜粋)

・児童館ガイドラインの改正が行われ、子どもの権利擁護を中心に据えた児童福祉法の理念(「子どもの主体性」「子どもの意見表明」)及びその重要性について記載されている。

・児童館は、子どもの存在を大事にする社会の風土づくりに寄与するよう期待される存在。

・児童館・児童クラブが全ての子どもたちの居場所として機能するよう、職員の資質向上と専門性の確立を目指す。

児童健全育成型児童館 ワーキンググループ活動報告

平成30年度、当会では過年度に実施してきた現況調査結果のフィードバックと、児童館が行う児童健全育成の取組及びその役割と重要性について地域や行政に理解を求めるため、専門委員や会員施設から7名の職員を選出し、ワーキンググループとして活動を行いました。

主な検討課題及び活動は、「会員施設の共通課題及び要望の把握」と、「児童健全育成の取組等児童館の役割についての情報発信」の2点とし、第4回まで検討を重ねてきました。その成果として、県や市町村との意見交換を行う際の3つの「要望の柱」(児童館・児童センターの本来的な機能の理解、長期的に子どもを支援するための継続雇用等雇用条件の改善、児童館が地域づくりにおいても重要な施設であることのPR)を立てました。

また、児童館の役割や存在意義を発信していくためのチラシを作成することとし、内容について協議を重ねてきました。

児童館の活動の充実のため、今後も皆の意見を出し合い、当会の取組みに活かしていくよう励んでいきます。

＊ワーキンググループメンバーの声＊

田代児童館　三浦 明美

児童健全育成型児童館ワーキンググループに参加させて頂きました。県内の運営形態・状況や、職員さんの児童館に対する想い等、多くの刺激を受けるとともに、素敵な出会いを得られたことに感謝申し上げます。

私たちは、「子どもの最善の利益」を優先して、地域のみんなの心のよりどころとなる児童館を目指しています。「楽しい、明日もまた行きたい」と思える場、また居心地の良い生活や文化をみんなで共有し作り上げようと発展させたいという願いや想う気持ちが共通で、熱く語り合う、熱気にあふれる会で、充実できました。

また、児童館の役割(福祉施設・専門性・人がいる・地域と共に)について、児童館を知っている人、知らない人のどちらにも届くような情報発信をすることの大切さを改めて感じました。

貴重な時間をありがとうございました。

山岸児童センター　渡辺 春美

私自身、2児の母であり10年前から児童センターを利用させていただいている地域の1人です。

しかし、この10年でセンター事情は変貌を遂げているようにも思われます。

児童は18歳まで誰でもセンターを利用できると謳いながら、私が所属する児童センターでは今や1年～3年までの預かり保育が主流となっています。これもまた地域事情の一つなのでしょう。当初、岩手県各自治体、市町村のそれぞれのニーズに添えるように体制が作られた各児童館・児童センター。時代は変わり一部では改革の声が必要なのではと感じております。ただ、設立当初から変わらない地域における「遊び」及び生活の援助と子育て支援を行い子どもの心身を育成し情操を豊かにすることを目的とする施設ということを念頭に私たち自身が日々の仕事の中で意識し、そして実施しなければならないと改めて感じております。放課後児童クラブとの連携により改めて気付かせていただきました。